

次の100年も・・・ここに商工会!!

●第145回(平成27年度第2回)●

# 中小企業景況調査報告書

栃木県商工会地区

平成27年 7月～ 9月・報告

平成27年10月～12月・予想



次の100年も  
・・・ここに商工会

栃木県商工会連合会



## 目次

	頁
1. 栃木県産業全体の景況概要	3
栃木県と全国の業況D I 推移を比較・・・図1	
県内産業別の業況D I 推移を比較・・・図2	
2. 製造業の景況	4
主要景況項目の推移	・・・図3
売上額(加工高)の状況	・・・図4
採算(経常利益)の状況	・・・図5
設備投資の状況	・・・図6
経営上の問題点の状況	・・・図7
3. 建設業の景況	7
主要景況項目の推移	・・・図8
売上額(完成工事高)の状況	・・・図9
採算(経常利益)の状況	・・・図10
設備投資の状況	・・・図11
経営上の問題点の状況	・・・図12
4. 小売業の景況	10
主要景況項目の推移	・・・図13
売上額の状況	・・・図14
採算(経常利益)の状況	・・・図15
設備投資の状況	・・・図16
経営上の問題点の状況	・・・図17
5. サービス業の景況	13
主要景況項目の推移	・・・図18
売上額(収入高)の状況	・・・図19
採算(経常利益)の状況	・・・図20
設備投資の状況	・・・図21
経営上の問題点の状況	・・・図22
6. 調査対象事業所の内容	16

### ○D I 指数とは

本文中やグラフ中に登場するD I 値とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index = 景気動向指数)の略であり、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合から減少(低下・悪化)企業割合を差し引いた値を示すものである。

D I 値がプラスのときは業況の好転、マイナスのときは業況の悪化を示すことから、景気の動向を判断する指数として利用される。また、D I 値は強気・弱気など、景況感の相対的な広がり示すものであり、売上額などの実数値の上昇率とは異なる。

たとえば、今期の売上額を前年同期と比較した結果、増加企業が50%、不変企業が30%、減少企業が20%となったとすると、D I 値は $50 - 20 = 30$ となり、売上額に対して強気の度合いを示している。

## 〔 調 査 要 領 〕

### ○調査の目的

中小企業景況調査は、全国の商工会地区に地域経済観測点を設置し、地域の産業の状況等や経済動向等について、一定時期ごとに変化の実態諸情報を迅速かつ的確に収集・提供して、経営改善普及事業の効果的实施に資するものとする。

本報告書は、栃木県内商工会地区における、「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」の4業種を、主要景況項目（売上額・原材料仕入単価・採算・資金繰り）から分析し、景況情報をまとめたものである。

### ○調査対象地区

栃木県下の10商工会地区

矢板市・下野市・うつのみや市・西方・芳賀町  
壬生町・野木町・氏家・那珂川町・西那須野

### ○調査対象

対象企業数：上記商工会地区の150企業（1商工会15企業）

回答企業数：150企業（回答率100.0%）

### ○調査時点

平成27年9月1日

### ○調査対象期間

平成27年7月～9月期の実績及び、平成27年10月～12月期の見通しについて調査

### ○調査方法

商工会の経営指導員による訪問調査

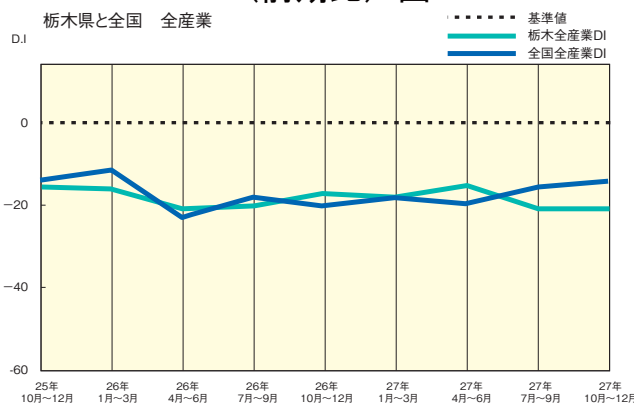
### ○回答企業数内訳

産 業	回答企業数	構成比(%)
製 造 業	30	20.0
建 設 業	21	14.0
小 売 業	40	26.7
サ ー ビ ス 業	59	39.3
合 計	150	100.0

# 1. 栃木県産業全体の景況概要

〈栃木県と全国の業況D I 推移を比較〉

「全国では回復傾向も、県内では悪化」  
(前期比) 図 1



今期の業況を全国で見ると、D I 値は+3.2<sup>°</sup> イント（-18.7<sup>°</sup> イント→-15.5<sup>°</sup> イント）と回復し、来期の見通しも、+1.1<sup>°</sup> イントの改善を予想している。

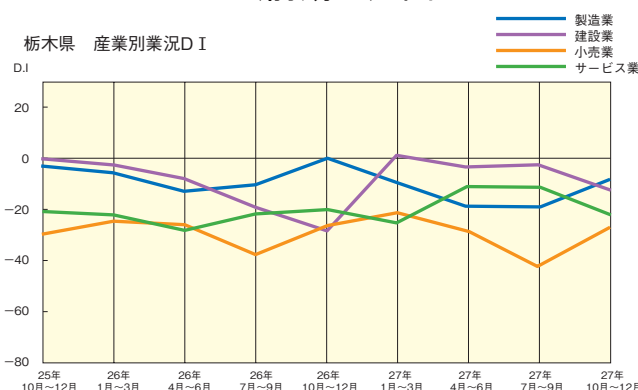
栃木県内の業況D I は、-5.5<sup>°</sup> イント（-15.0<sup>°</sup> イント→-20.5<sup>°</sup> イント）と悪化し、来期予想は+0.2<sup>°</sup> イント（-20.5<sup>°</sup> イント→-20.3<sup>°</sup> イント）と横ばいの予想となっている。

全国では僅かながら回復基調が続き、消費税率引き上げ以前の水準に戻りつつあるものの、県内では悪化と相反する傾向となっている。

※全国業況D I は、独立行政法人中小企業基盤整備機構が公表するニュースリリースから、栃木県業況D I は、商工会議所・中小企業団体中央会が実施する中小企業景況調査を含めた値を利用してグラフ化した。それぞれの調査時点は同日である。

〈県内産業別の業況D I 推移を比較〉

「今期は小売業が大幅な悪化、来期の傾向は業種で様々」  
(前期比) 図 2



今期は「小売業」が-14.2<sup>°</sup> イント（-28.4<sup>°</sup> イント→-42.6<sup>°</sup> イント）と大幅な悪化となったが、来期は+12.6<sup>°</sup> イントと回復に転じ、前期並みの水準に戻る予想となっている。

「建設業」「サービス業」は今期、横ばいとなったが、来期は悪化する見込みとなっている。

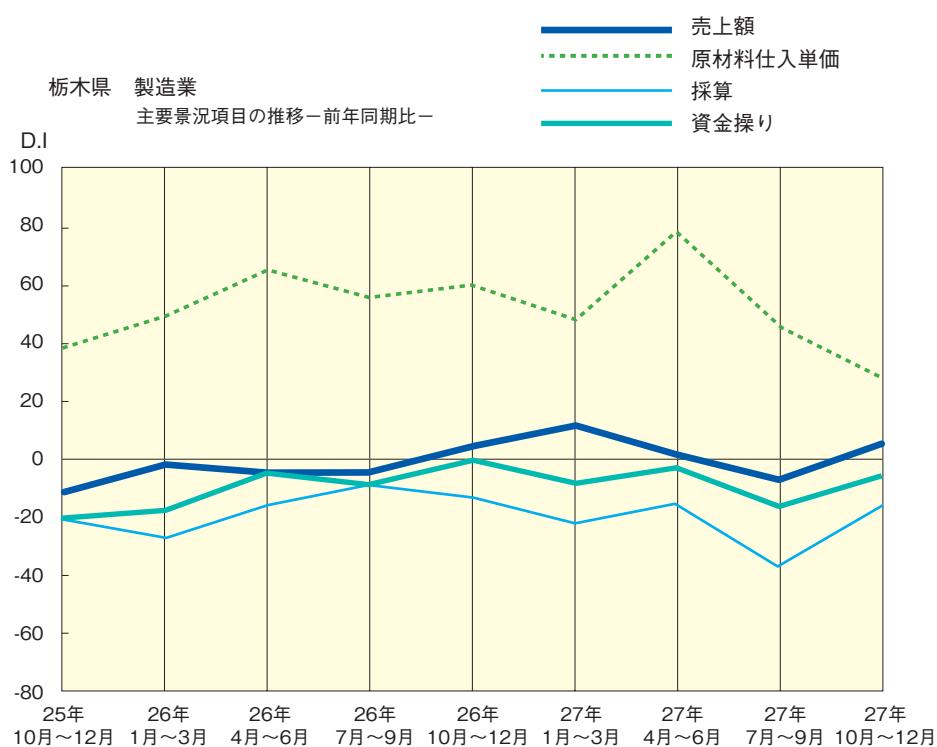
一方、「製造業」も今期は横ばいであるが、来期は回復の予想となっている。

## 2. 製造業の景況

－主要景況項目の推移－

「原材料仕入単価が大幅に低下、来期も低下を予想」

製造業 主要項目の推移（前年同期比） 図3



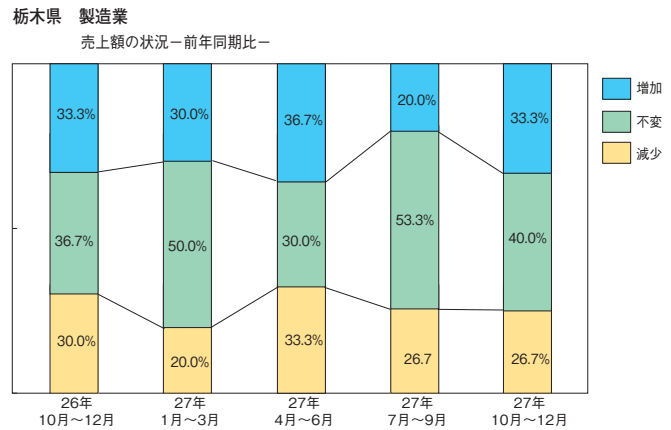
「原材料仕入単価」は前期、大幅な上昇になったが、今期は前々期同等の水準となり、来期はさらに低下を予想している。

「売上額」「採算」「資金繰り」は今期悪化となったが、来期は3項目とも改善を予想し、「売上額」についてはプラス水準を予想している。

－売上額(加工高)－

売上額(加工高)の状況(前年同期比) 図4

今期D I 値の内訳は、増加企業が20.0%、減少企業が26.7%であった。不変企業が23.3%増加し、増加企業が16.7%減少となったため、D I 値は－6.7ポイントとなった。

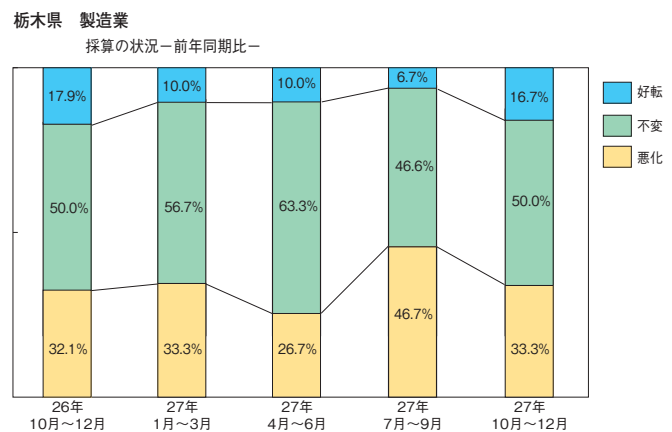


来期の見通しは、売上増加と予想する企業が33.3%、減少を予想する企業が26.7%で、D I 値は+6.6ポイントとなっている。

－採算(経常利益)－

採算(経常利益)の状況(前年同期比) 図5

今期D I 値の内訳を見ると、好転企業は微減(10.0%→6.7%)ながらも、悪化企業が大幅に増加(26.7%→46.7%)するため、D I 値は－40.0ポイントで、前期(－16.7ポイント)より大幅な悪化となった。



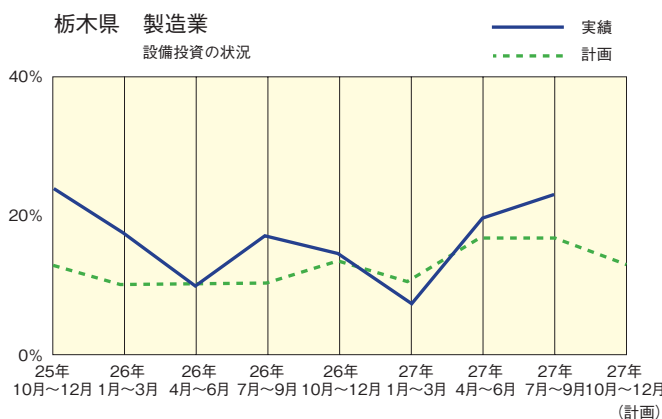
来期の見通しは、好転を予想する企業が増加し、悪化を予想する企業が減少するため、D I 値は－16.6ポイントと改善を予想している。

—設備投資の状況—

設備投資の状況 図6

今期の設備投資の状況は、計画していた企業割合が16.7%に対し、実績は23.3%と2期連続で計画を上回る結果となった。

来期に設備投資を計画している企業は13.3%となっている。

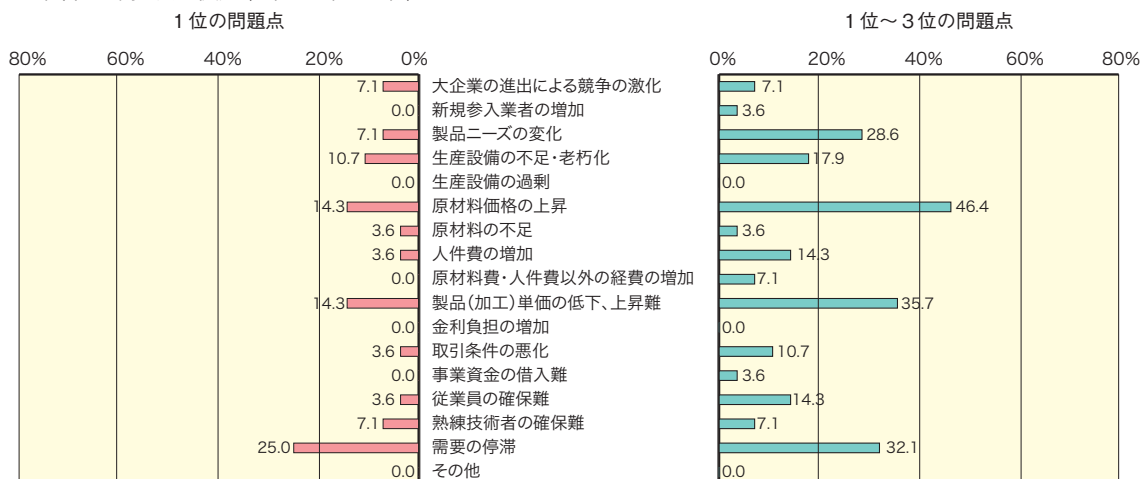


—経営上の問題点—

経営上の問題点の状況 図7

栃木県 製造業

経営上の問題点の状況 (1位と1位~3位)



1位の問題点を見ると、「需要の停滞」が最も多く、25.0%となっている。次いで「製品(加工)単価の低下、上昇難」「原材料価格の上昇」(14.3%)と前期と同様の問題点が挙げられている。1位~3位の問題点では、1位の問題点と同じ項目が上位に挙げられているが、特に「原材料価格の上昇」が大きく伸び、1位として挙げられた。

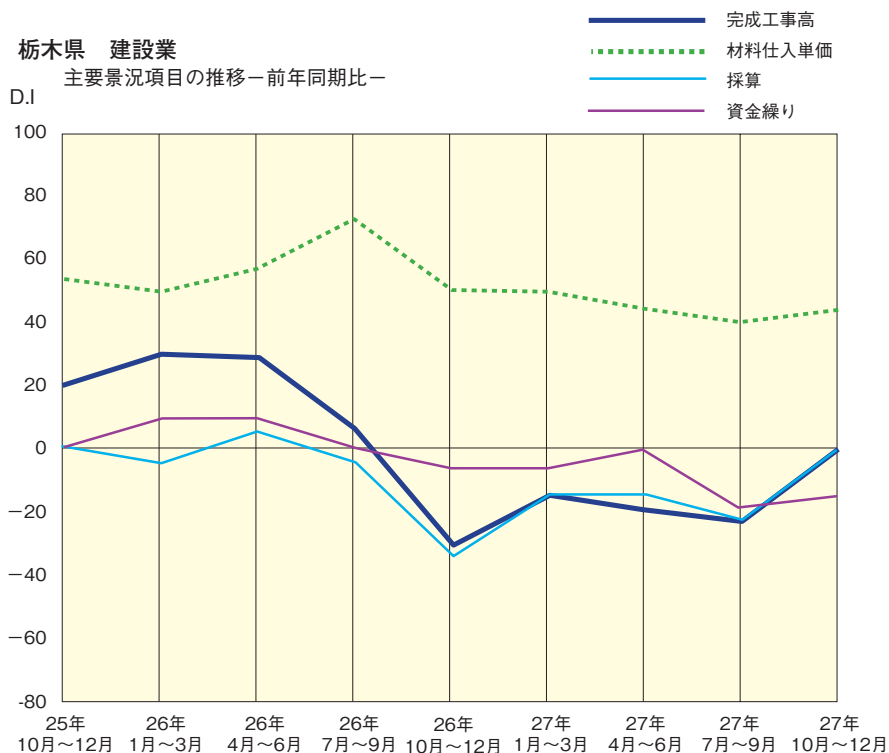


### 3. 建設業の景況

－主要景況項目の推移－

「各項目で悪化するも、来期は回復を予想」

建設業 主要項目の推移（前年同期比） 図8



「資金繰り」は、前期比－19.1ポイント（0.0ポイント→－19.1ポイント）と大幅に悪化し、「売上額（完成工事額）」「採算」についても小幅ながら悪化となっている。

来期の見通しは、「売上額（完成工事額）」「採算」が大幅に改善（＋23.9ポイント）、「資金繰り」についても改善を予想している。

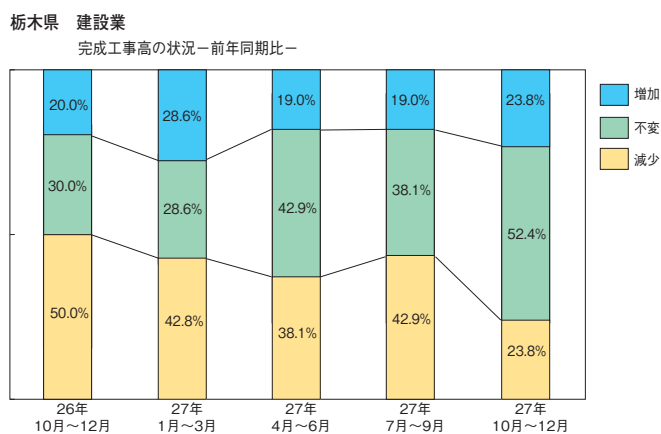
「材料仕入単価」は低下（－4.8ポイント）したものの、来期は再び上昇を予想している。

－売上額(完成工事高)－

売上額(完成工事高)の状況(前年同期比) 図9

今期D I 値の内訳を見ると、増加企業が前期と変わらず19.0%だったものの、減少企業が42.9%と微増したため、D I 値は-23.9ポイントと、前期に比べ、-4.8ポイント悪化した。

来期の見通しでは、増加を予想する企業が増え(19.0%→23.8%)、不変とする企業が増加(38.1%→52.4%)するため、D I 値は改善(-23.9ポイント→0.0ポイント)を予想している。

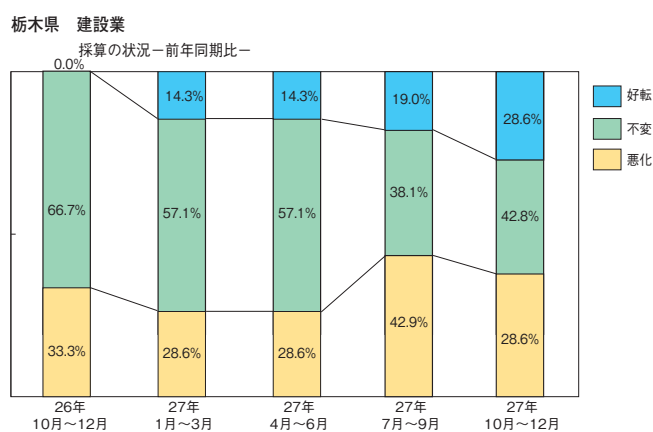


－採算(経常利益)－

採算(経常利益)の状況(前年同期比) 図10

今期は、好転企業が増加(14.3%→19.0%)したものの、悪化企業も増加(28.6%→42.9%)したため、D I 値は-23.9ポイントと大幅に悪化した。

来期の見通しは、好転企業が増加(19.0%→28.6%)し、悪化企業が減少(42.9%→28.6%)するため、D I 値は改善(0.0ポイント)を予想している。

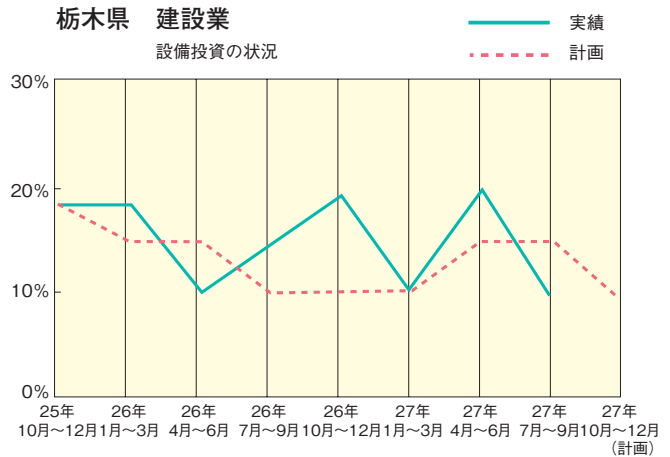


—設備投資の状況—

設備投資の状況 図11

今期の設備投資の状況は、計画していた企業が14.3%に対して、実績は9.5%と計画を下回る結果となった。

来期に設備投資を計画している企業は、今期計画より減少し9.5%となっている。

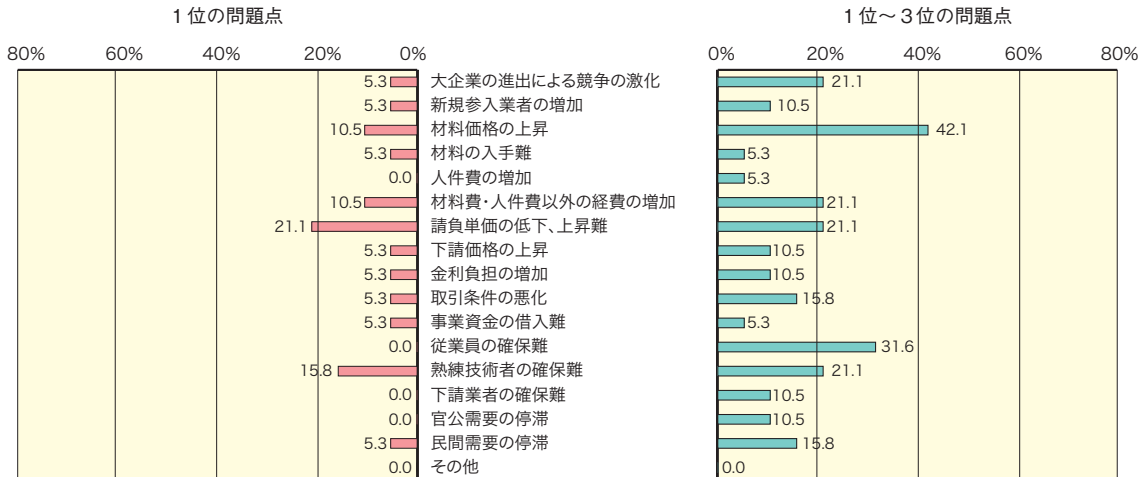


—経営上の問題点—

経営上の問題点の状況 図12

栃木県 建設業

経営上の問題点の状況 (1位と1位~3位)



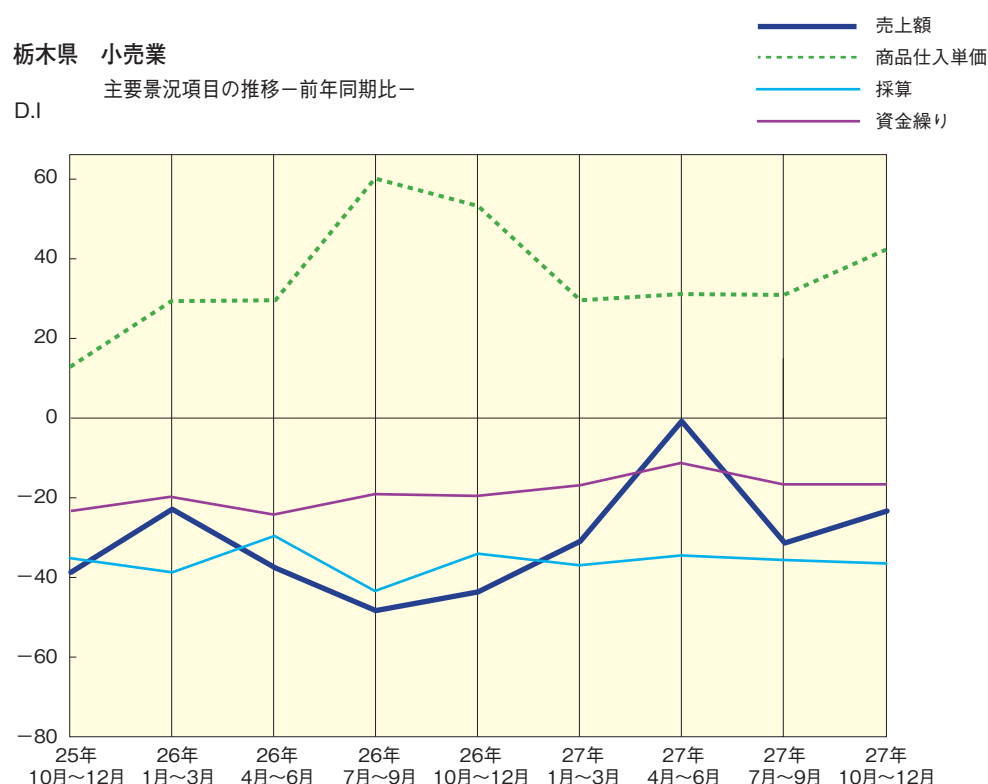
1位の問題点では、「請負単価の低下、上昇難」(21.1%)が挙げられており、次いで「熟練技術者の確保難」(15.8%)が挙げられている。2期連続してに1位に挙げられていた「民間需要の停滞」(5.3%)が大幅に減少した。1位~3位の問題点では、「材料価格の上昇」(42.1%)「従業員の確保難」(31.6%)などが高い値で挙げられ、様々な課題に直面していることがうかがえる。

## 4. 小売業の景況

－主要景況項目の推移－

「今期は売上額が大幅に悪化するも、来期は回復を予想」

小売業 主要項目の推移（前年同期比） 図13



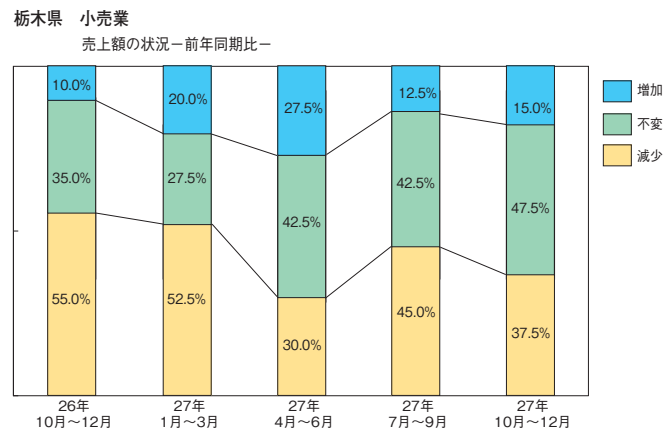
D I 値は、予想通り「売上額」が前期と比べ $-30.0^{\circ}$  イント ( $-2.5^{\circ}$  イント $\rightarrow$  $-32.5^{\circ}$  イント) と大幅に悪化、緩やかに上昇傾向であったが4期ぶりにマイナスとなった。「採算」( $-3.4^{\circ}$  イント) 「資金繰り」( $-2.2^{\circ}$  イント) も小幅ながら悪化となった。

来期の見通しをみると、「売上額」が改善すると予想され、「商品仕入単価」については上昇を予想している。「採算」「資金繰り」は横ばいと予想している。

－売上額－

売上額の状況（前年同期比）図14

今期D I 値の内訳を見ると、売上額が増加したとする企業が12.5%と前期に比べ大幅に減少し、減少企業が45.0%と増加したためD I 値は-32.5ポイントとなり、前期の-2.5ポイントから大幅な悪化となった。

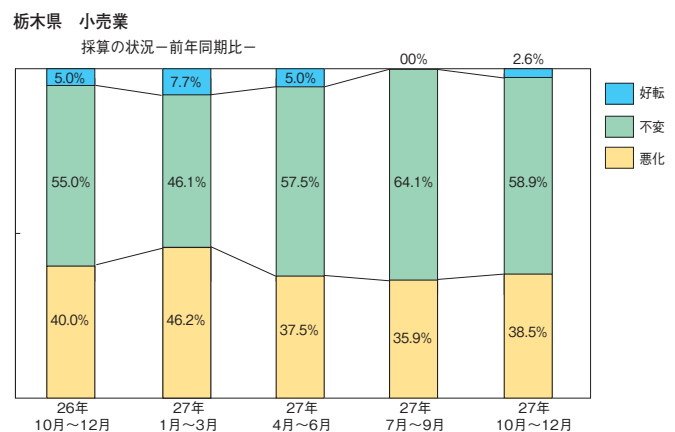


来期の見通しは、売上増加を予想する企業が15.0%に微増し、売上額が減少するとした企業が37.5%に減少するため、D I 値は-22.5ポイントと一転して大幅な改善となる予想である。

－採算（経常利益）－

採算（経常利益）の状況（前年同期比）図15

今期D I 値の内訳を見ると、好転企業が0%、悪化企業が35.9%、で、D I 値は-35.9ポイントと、前期（-32.5ポイント）に比べ3.4ポイント悪化し、依然として厳しい状況にある。



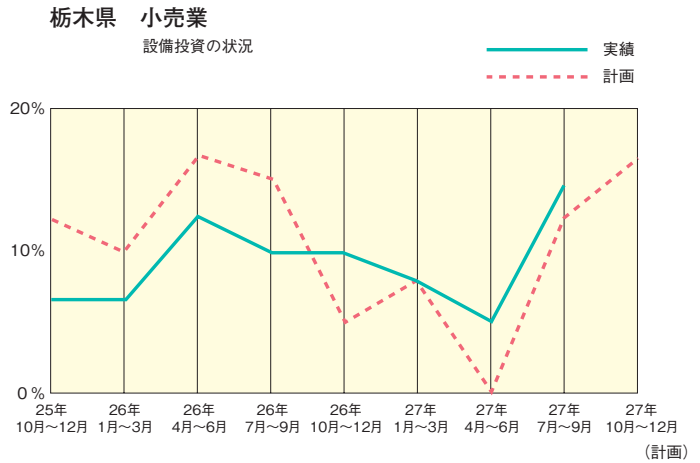
来期の見通しは、好転企業が僅かに増加するものの、悪化を予想する企業も増加するため、D I 値は今期と変わらず-35.9ポイントと予想している。

—設備投資の状況—

設備投資の状況 図16

今期の設備投資の状況は、計画していた企業割合12.5%に対し、実施割合は15.0%と、積極的な結果となった。

来期に設備投資を計画している企業は17.5%である。

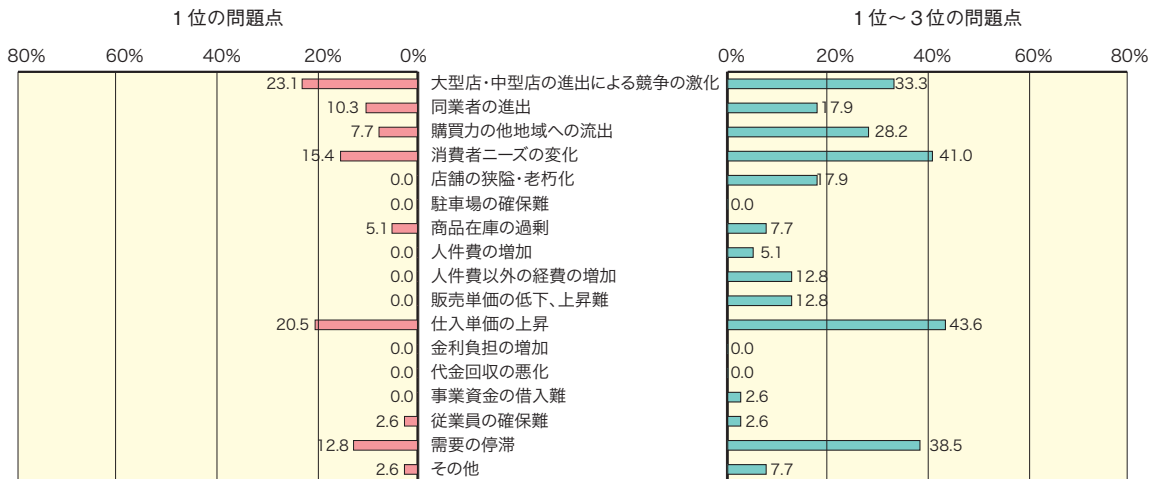


—経営上の問題点—

経営上の問題点の状況 図17

栃木県 小売業

経営上の問題点の状況 (1位と1位~3位)



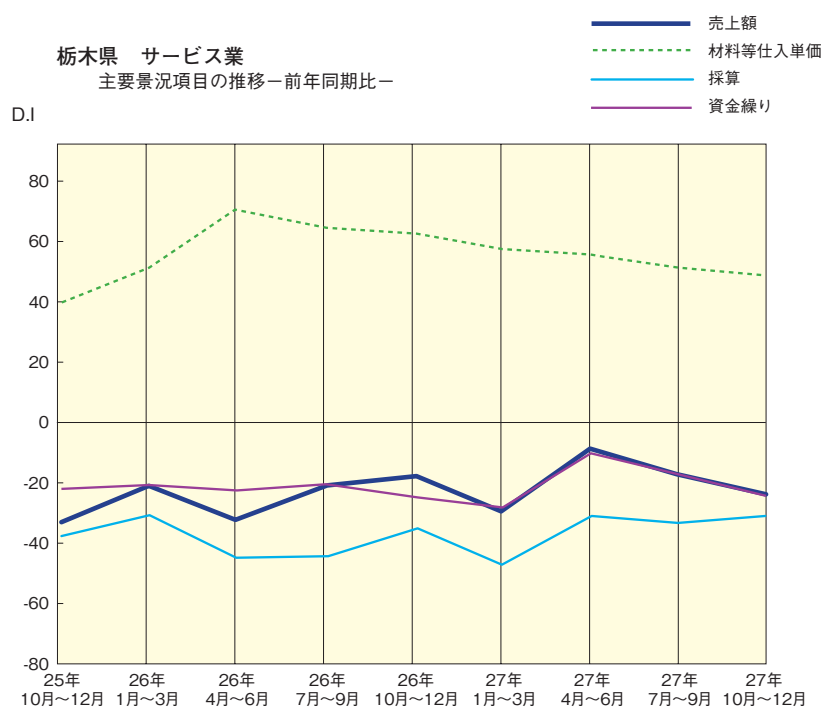
1位の問題点では、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(23.1%)、「仕入単価の上昇」(20.5%)、「消費者ニーズの変化」(15.4%)という順で挙げられた。1位~3位の問題点では、上記3つの問題点に加え、「需要の停滞」が挙げられている。

## 5. サービス業の景況

—主要景況項目の推移—

「今期は各項目で悪化傾向、来期は横ばいを予想」

サービス業 主要項目の推移（前年同期比）図18



「売上額」のD I値は前期と比べ $-8.4$ ポイント（ $-8.9$ ポイント $\rightarrow$  $-17.3$ ポイント）と悪化した。「採算」 $-3.0$ ポイント（ $-28.6$ ポイント $\rightarrow$  $-31.6$ ポイント）、「資金繰り」 $-8.1$ ポイント（ $-10.9$ ポイント $\rightarrow$  $-19.0$ ポイント）とこちらも悪化を示した。

「材料等仕入単価」は $-6.1$ ポイント（ $57.8$ ポイント $\rightarrow$  $51.7$ ポイント）と低下となったが、依然として高水準が続いている。

来期は、「売上額」のD I値が $-6.4$ ポイント悪化（ $-17.3$ ポイント $\rightarrow$  $-23.7$ ポイント）、「資金繰り」についても $-3.0$ ポイントの悪化（ $-19.0$ ポイント $\rightarrow$  $-22.0$ ポイント）を予想している。「採算」については $+2.2$ ポイント改善（ $-31.6$ ポイント $\rightarrow$  $-29.4$ ポイント）すると予想している。

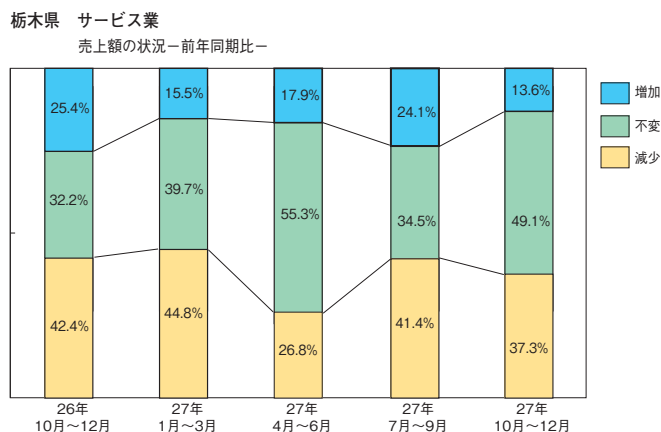
「材料等仕入単価」は、低下傾向を維持すると予想している。

－売上額(収入高)－

売上額(収入高)の状況(前年同期比) 図19

今期売上額のD I 値の内訳を見ると、増加企業が24.1%と前期に比べ増加したが、減少企業が41.4%と大幅に増加したため、D I 値は-17.3ポイントと大幅に悪化した。

来期の見通しについても、増加を予想する企業が13.6%と減少し、不変を予想する企業が増加するため、D I 値は-23.7ポイントとさらなる悪化予想となった。

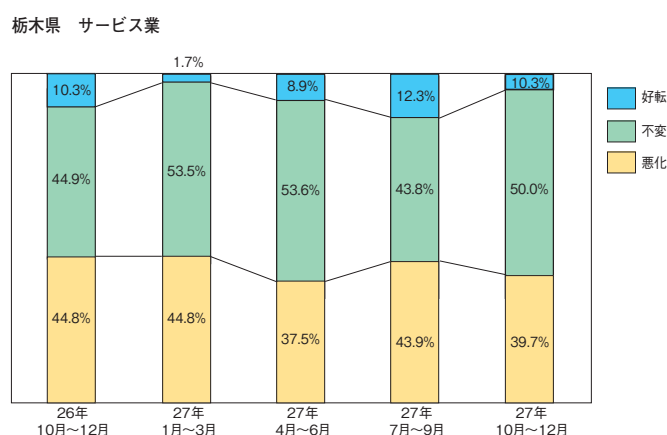


－採算(経常利益)－

採算(経常利益)の状況(前年同期比) 図20

今期D I 値の内訳を見ると、好転企業が12.3%と増加したものの、悪化企業も43.9%と増加したため、D I 値は-31.6ポイントと悪化し、厳しい状況にある。

来期の見通しは、好転を予想する企業が10.3%と微減する予想であるが、不変を予想する企業が43.8%から50.0%に増加するため、D I 値は-29.4ポイントと小幅ながら改善を予想している。



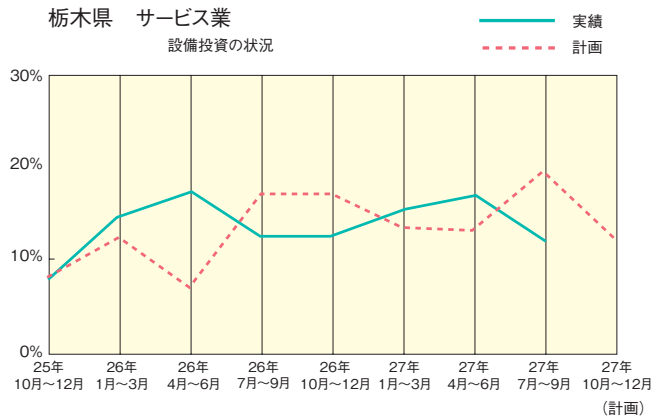


—設備投資の状況—

設備投資の状況 図21

今期の設備投資の状況は、計画していた企業割合19.0%に対し、実施割合は11.9%となり、計画を下回る結果となった。

来期に設備投資を計画している企業は、11.9%となっている。

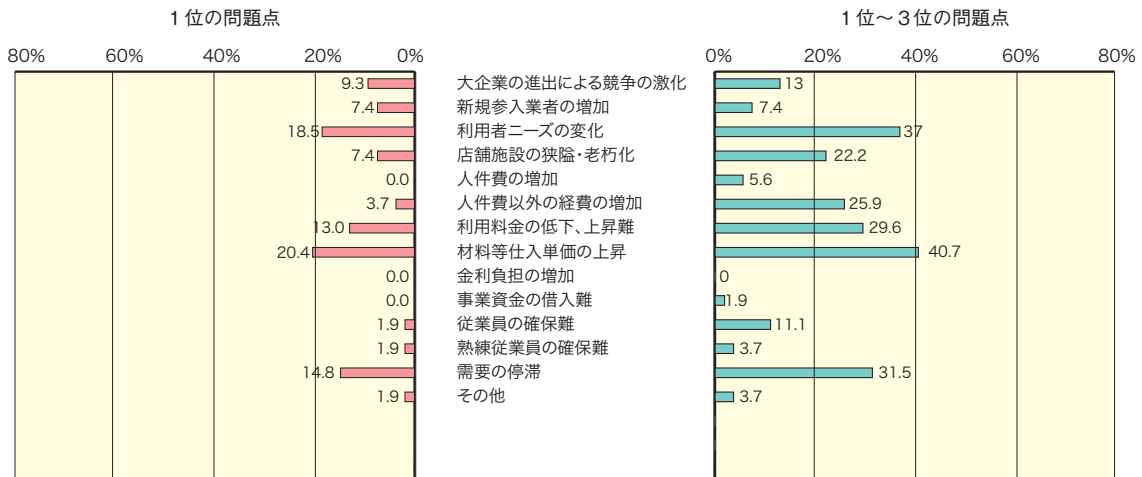


—経営上の問題点—

経営上の問題点の状況 図22

栃木県 サービス業

経営上の問題点の状況 (1位と1位~3位)



1位の問題点では、3期連続で「材料等仕入単価の上昇」が20.4%でトップに挙げられ、次いで「利用者ニーズの変化」が18.5%、「需要の停滞」が14.8%と前期と同順で挙げられている。1位~3位の問題点でも「材料等仕入単価の上昇」が40.7%、「利用者ニーズの変化」が37.0%、「需要の停滞」が31.5%と1位の問題点と同じ項目が同順位で挙げられている。

## 6. 調査対象事業所の内容

### 〈製造業〉

#### 業種別内訳 30事業所

業種	事業所数	割合%
食料品製造業	6	20.0
飲料・資料・たばこ製造業	1	3.3
繊維工業	0	0.0
衣服・その他繊維製品製造業	1	3.3
木材・木製品製造業	0	0.0
家具・装備品製造業	1	3.3
パルプ・紙・紙加工品製造業	0	0.0
印刷・同関連業	2	6.7
化学工業	0	0.0
プラスチック製品製造業	1	3.3
窯業・土石製品製造業	1	3.3
金属製品製造業	3	10.0
一般機械器具製造業	1	3.3
電気機械器具製造業	1	3.3
輸送用機械器具製造業	4	13.3
精密機械器具製造業	1	3.3
その他の製造業	7	23.3

#### 従業員規模別内訳

従業員数	事業所数	割合%
2人以下	13	43.3
3人以上～5人以下	7	23.3
6人以上～10人以下	5	16.7
11人以上～20人以下	3	10.0
21人以上～50人以下	1	3.3
51人以上～100人以下	0	0.0
101人以上	1	3.3

### 〈建設業〉

#### 業種別内訳 21事業所

業種	事業所数	割合%
総合工事業	11	52.4
職別工事業	7	33.3
設備工事業	3	14.3

#### 従業員規模別内訳

従業員数	事業所数	割合%
2人以下	9	42.9
3人以上～5人以下	6	28.6
6人以上～10人以下	4	19.0
11人以上～20人以下	1	4.8
21人以上～50人以下	1	4.8
51人以上～100人以下	0	0.0
100人以上	0	0.0

### 〈小売業〉

#### 業種別内訳 40事業所

業種	事業所数	割合%
各種商品小売業	1	2.5
織物・衣服・身の回り品小売業	5	12.5
飲食料品小売業	14	35.0
自動車・自転車小売業	3	7.5
家具・建具・じゅう器小売業	3	7.5
その他小売業	14	35.0

#### 従業員規模別内訳

従業員数	事業所数	割合%
2人以下	33	82.5
3人以上～5人以下	7	17.5
6人以上～10人以下	0	0.0
11人以上～21人以下	0	0.0
21人以上	0	0.0

### 〈サービス業〉

#### 業種別内訳 59事業所

業種	事業所数	割合%
一般飲食業（一般・遊興）	23	39.0
宿泊業	2	3.4
運輸業	2	3.4
自動車整備業	5	8.5
洗濯・理美容業	15	25.4
その他サービス業	12	20.3

#### 従業員規模別内訳

従業員数	事業所数	割合%
2人以下	44	74.6
3人以上～5人以下	13	22.0
6人以上～10人以下	2	3.4
11人以上～21人以下	0	0.0
21人以上	0	0.0



---

第 1 4 5 回中小企業景況調査報告書

---

平成 2 7 年 7 月～ 9 月期報告  
平成 2 7 年 1 0 月～ 1 2 月期予想

編集：栃木県商工会連合会 顔晴る企業応援課  
発行所：栃木県商工会連合会 栃木県宇都宮市中央 3 丁目 1 番 4 号  
TEL 028-637-3731 FAX 028-637-2875  
印刷所：(株)松井ピ・テ・オ・印刷

---